

## 会 議 録

会 議 の 名 称	第1回 枚方市上下水道事業経営委員会
開 催 日 時	平成23年 8月 24日（水） 15時00分から17時00分まで
開 催 場 所	中宮浄水場 高度浄水施設 水と緑のふれあい館
出 席 者	<p>委員長：真山委員、副委員長：中室委員</p> <p>委 員：大森委員、飯田委員、日垣委員、田中委員、福川委員、実松委員、山口委員</p> <p>職 員：&lt;水道部&gt;福井部長、中村次長、松山次長、伊藤次長、静間上下水道経営課長、小下給水管理課長、津熊水道工務課長、中井お客さまセンター長、明智水道保全課長、山本浄水課長、小幡主幹、田内主幹、山森主幹、野島主幹、林課長代理</p> <p>&lt;下水道部&gt;片岡部長、谷本次長、吉竹次長、湯川下水道整備室課長、森井下水道整備室課長、田淵下水道整備室課長、藤村下水道管理課長、森村下水道施設維持課長、赤岩課長代理</p> <p>事務局：赤土課長代理、竹本係長、中辻主任、中島主任</p>
欠 席 者	なし
案 件 名	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 委員長、副委員長の選任について</li> <li>2. 会議等の公開の決定について</li> <li>3. 上下水道事業 事業報告について</li> <li>4. 水道事業経営評価について</li> <li>5. その他</li> </ol>
提出された資料等の名称	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 枚方市上下水道事業経営委員会 委員名簿</li> <li>2. 枚方市審議会等の会議の公開等に関する規程</li> <li>3. 枚方市上下水道事業経営委員会規程</li> <li>4. 枚方市上下水道事業 事業報告書 平成22（2010）年度</li> <li>5. 経営評価表</li> <li>6. 平成22年度実績 基本施策評価表</li> <li>7. 水道事業ガイドライン業務指標（P I）実績一覧表</li> <li>8. 上下水道事業経営委員会スケジュール予定表</li> <li>9. 出席職員等一覧</li> <li>10. 平成22年第1回 経営委員会指摘事項について</li> <li>11. 施策アンケート結果</li> </ol>
決 定 事 項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 委員長、副委員長の決定</li> <li>2. 会議等の公開の決定</li> <li>3. 会議録を概要で作成することを決定</li> <li>4. 経営評価自己評価結果に係る検討作業の実施</li> </ol>
会議の公開、非公開の別	公開
会議録の公表、非公表の別	公表
傍 聴 者 の 数	1 人
所管部署（事務局）	水道部 上下水道経営課

## 審 議 内 容

(会議録を概要で作成することを全会一致で承認)

### 1. 委員長、副委員長の決定について

真山委員を委員長、中室委員を副委員長とすることを決定。(全会一致)

### 2. 会議等の公開の決定について

委員会の会議は公開。会議録についても公表とすることを決定。(全会一致)

### 3. 上下水道事業 事業報告について

報告内容について確認。

### 4. 水道事業経営評価について

22年度実績評価等について本委員会に諮り、自己評価結果にかかる委員による検証作業を実施。

### 5. 質疑応答

#### ●下水道事業経営状況等について

委員長 : 不明水対策とは具体的にどのようなもので、どれくらい収入増につながるのか。

湯川課長 : 本市は雨水と汚水の分流方式をとっている。台所やトイレなどで使用した水は污水管へ流すが、昭和30年代より事業を実施しているため、老朽管においては、管の接続部や人孔の継ぎ手部などから地下水が混入している可能性がある。それが処理場に流れると処理水の量が増える形となり、その分が余分に処理費の負担金として徴収されることとなる。そのため、できるだけ侵入水が入ってこないよう対策を強化していく。

委員長 : 不明水対策は人件費などコストもかかると思うが、それに見合うだけのプラスの効果があるのか。

湯川課長 : 実際に、雨が降った時には処理場へ流入する水量が1.8~2倍に増加する場合があります、処理費の負担金が上がる。それが減少できればコストも安くできると思う。

副委員長 : 雨水がどこから入るのかを調査するには、相当な費用がかかるのでは。

湯川課長 : 以前は職員がその地域の各家庭で、管の接続状況などを調べていた。現在は水量計を設置し、雨の時にその地区にどれだけ不明水が入ってくるかを調査している。

片岡部長 : 対策としては、侵入箇所をピンポイントで絞り込むのは難しいため、雨の時は一時的に貯留槽に貯めて、その後処理場に戻すということも併せて行っている。ただし貯留が目的ではなく、どこから雨水が入り込んでいるかを調査し対策することが、本来の不明水対策と考えている。

#### ●経営評価について

委員 : 類似団体との比較や、年度当初に目標値等を設定し、その検証を実施しているのか確認したい。

中村次長 : 資料5で本市の目標を矢印で表している。また、類似団体との比較についても同資料の類

似団対比較列で白星・黒星で表記している。

委員 : 資料4 (表4-1) は資料5から6件の指標を抜き出したということだが、高い方が良い場合は上向きの矢印で、低い方が良い場合は下向きの矢印で表しているのか。

中村次長 : 数値が高ければ高いほど良いのが上向きの矢印で、低ければ低いほど良いのが下向きの矢印である。

委員 : それぞれの指標の数値について説明をしてほしい。

静間課長 : 資料5に説明列に、それぞれの指標の説明を記載している。経常収支比率の場合、経常費用を経常収益でまかなえているかどうかを示す指標であり、100%なら利益がなく110%なら利益が出ている状況を表している。水道事業は公営企業であり、この比率が高ければ高いほど良いというものではないが、100%を上回っている必要があると考える。

谷本次長 : 民間企業なら高ければ高い方が良いと思うが、公営企業としては経常収支比率があまり高すぎるのは良くない。他の指標では高ければ高い方が良いものもある。

委員 : 数字だけ見るとわかりにくい。普通の企業なら利益が出れば良いが、公営企業はあまり利益を出さず、プラスマイナス0ぐらいの方が良いのか。ただ、そのような感覚は、言われないうとわからない。

委員 : 資料4の表4-1の矢印と、資料5の矢印の意味が異なるように見受けられるが、このことについて説明をお願いしたい。

事務局 : 資料4の表4-1の評価指標列の矢印は、資料5の説明欄カッコ書きで記載されているもの。資料5に記載する薬品備蓄日数の場合、多ければ多いほど良いものではなく、目標値についても本市については、現行の水準を維持するという形で表記しているものを表記している。

それぞれの指標によって考え方が異なるので、資料5の説明欄の記載内容を確認いただければと思う。

委員長 : 経常収支比率は、数が大きい方が良く150、200となれば経営的には良いが、それを超えると経営努力をしている点で評価できるものの、別の次元として水道料金の値下げ等の議論が出てくる。経営サイドの考え方では、高ければ高いほど良いと言って良いかもしれない。それだけ比率が良くなれば水道料金に還元すれば良いが、還元するかどうかの判断は、評価とは別の次元の議論になると思う。

今回、報告書の内容自体は良しとするが、資料4の表4-1と資料5の表が同じ数字を扱っているものの若干説明の仕方が異なるため、次年度以降わかりやすい説明を心掛けてほしい。

福井部長 : 資料の説明などを工夫する。

## ●基本施策評価について

委員 : 基本施策評価表4「管路の計画的・効率的な耐震化」について、整備延長実績が約9kmで目標の10kmを達成していないが、評価は目標どおり達成のA評価で良いのか。

伊藤次長 : 整備延長で言うと10kmが目標だが、管路の耐震化は面整備であり、面的に工事を行っている。その地区ごとの工事で、古い管、耐震化ができていない管などを調べており、状態が悪い管はその都度替えている。鉛管解消を含めて行っており、面的に見た場合は10km

とならない場合もあるが、事業費も昨年とほぼ横ばいであり概ね目標どおり達成したと判断したもの。

委員 : 基本施策評価表20「市民等との協働による災害応援協力体制の確立」について、目標をわずかに下回った評価であるB評価になっている理由について確認したい。

中村次長 : 水道事業については、自治体間の協力体制もかなり整ってきており、東日本大震災でも本市を含め、各自治体から応援を行っている。平成19年の計画策定時には施策目標に掲げ、積極的に取り組んでいくものとしていたが、現在、市民公募の災害応援協力制度の構築については、その必要性が薄らいでいると思っている。

また、市としても市民安全部を中心に危機管理体制を構築し、地域には自主防災組織があるため制度的に重複してしまう。水道事業として、自治体間の相互応援協定に基づく応援や日本水道協会を中心とした災害体制の構築、充実が重要であると考えている。今後の本施策の取り組みについては検討を行っていききたい。

委員 : 市民にとっては実際、災害時に水をどのように持って来るのか、また他市との連携についてなども気になるところ。市民レベルでの体制を考えた方が良いのではないか。

中村次長 : 大きな災害の場合は、水道事業だけで市民と協働するより、市全体として指示系統を一本化しておいた方がより効果的と考えている。

委員 : ただ、現行計画の計画主要施策として掲げている以上、A評価を目指して努力するべき。未達成ならその理由などをしっかり書いた方がわかりやすい。

委員長 : 基本施策評価表結果一覧表では情報が十分表現しきれていないが、一覧表の後ろに各基本施策個別の内容を詳しく載せている。

この個別の表の内容や局の自己評価に対して、次回以降、本委員会でも検討し、今後どうするのかについても委員会としての意見やアドバイスをいただければと思う。また、今回の質問のようなことを、他の項目についてもご検討いただくことが次回以降の重要な課題になるかと思う。

### ●今後のスケジュールについて

委員長 : 本委員会の担当事務に上下水道事業の経営計画の策定に関することが追加された。下水道事業との組織統合により、計画策定に関して本委員会に意見が求められることになる。今後は、上水道と下水道の両方を見ながら審議を進めていく。

### ●まとめ

委員長 : 今回は主に資料の説明を受けた。事業報告については、表などでわかりにくい部分があるとの指摘があったが、報告内容自体については了解を得たものと考えている。

局として評価したものを再度じっくり見直し、それを踏まえて第2回委員会で、委員会としての意見具申を行う形で進めていきたい。

委員会として今後の上下水道の経営にとって有意義な意見具申をまとめていきたいので、次回までに委員個別に再度ご検討いただければと思う。

